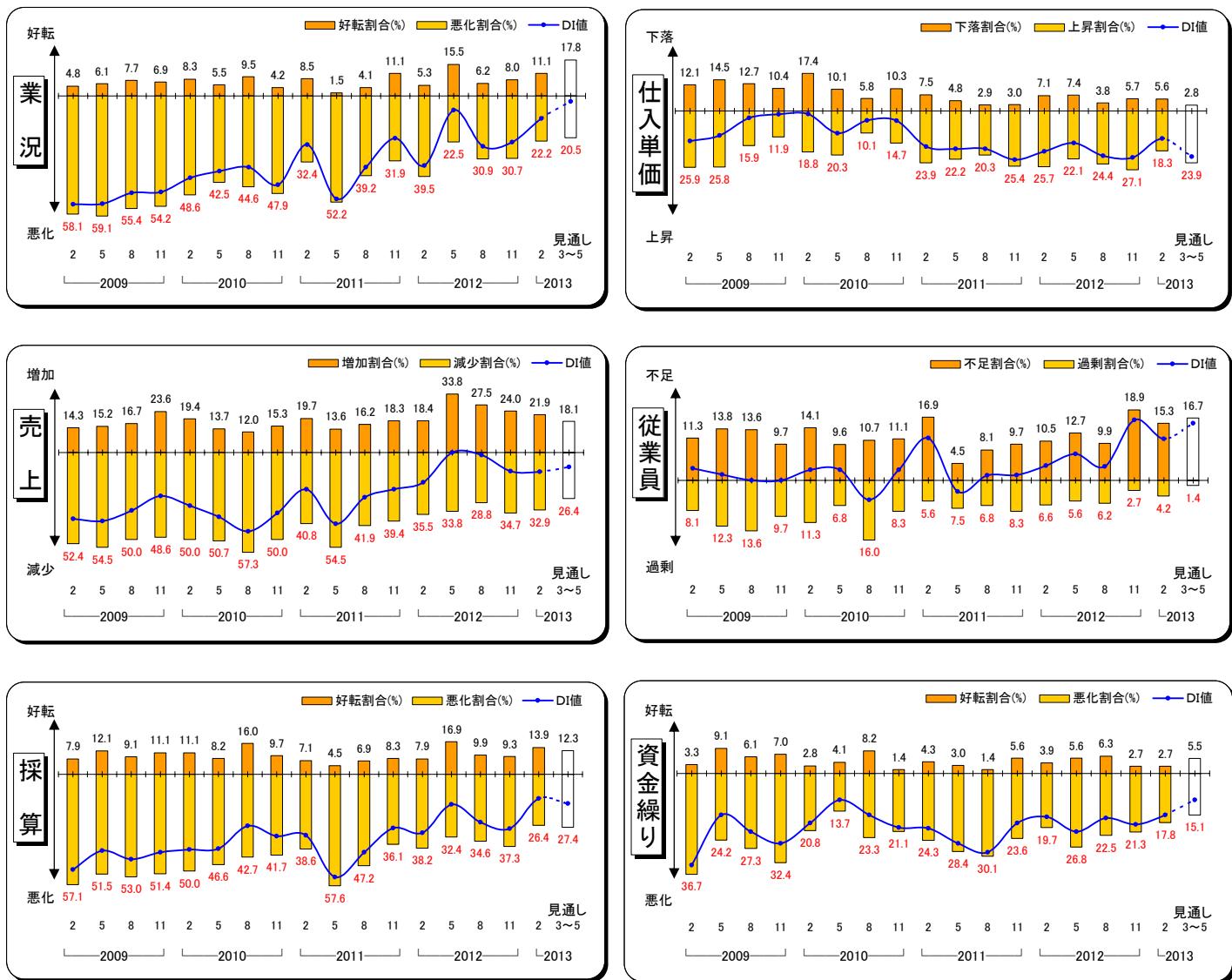


# 【サービス業】①



## 【サービス業】②

### 企業の声（順不同）

建設機械器具賃貸業	円安による仕入単価の上昇で経費が増加している。
建築設計業	政権が変わったことで期待感がある。デフレ脱却に期待したい。
受託開発 ソフトウェア業	引き続き人員不足の状況です。
不動産管理業	減価償却費が減少したことによる納税額の増加等により、資金繰りが一時的に悪化しています。5月以降は平常に復す予定です。
専門料理店	輸入事業は、円安と仕入単価の上昇で、原価率が高くなっている。売上高は前々年より低かった昨年と今のところ同じ位である。景気回復傾向が続けば、販売価格を値上げすることも必要だと思う。飲食業は好調に推移して3期連続で伸びているが、輸入事業部の売上減の補填に回ってしまっている。異常であった円高が是正されるのは歓迎であるが、異常な円安にはなって欲しくない。
産業廃棄物処分業	アベノミクスが実体経済に反映されるか注視している。
建築設計業	昨年の決算（10月）は多少の黒字になり、今期も今のところ順調であるが、先行きは極めて不透明であり、現政権の経済効果も末端まで届くには時間的な問題があるため、最終的に黒字化に至るかは疑問である。そのため、新規採用、昇給等には結びついていないのが現状である。
飲食店	寒さで野菜が高騰している上に、円安により他の材料費も値上がりしてきている。
すし店	しけにより仕入単価が上昇し、採算が悪化している。
不動産賃貸業	例年2～4月が賃貸のマーケットの最需要時期にあたりますので、個人、法人の動向が気になります。ここ数年は法人の動きが鈍いのですが、今年はどうなるでしょうか。
機械修理業	円安により海外からの問い合わせが増加。中古機械の供給が間に合わず、値上がりの傾向がある。（3月の建機オークションでは高値の競りとなりそうである。）公共工事の影響か、レンタル、リース事業はかなり業績改善している様子がある。油圧シリンダー等の製品製造も行っているが、こちらは需要が増加する様子はない。
建築設計業	政権交代により、公共事業予算（補正）が大幅に増額されようとしている。公共事業に携わるものとしては、久々に明るいニュースとして期待したいところである。マスコミの論評でも、公共事業の必要性について前政権時代とはかなり違うニュアンスで報道されているよう感じられる。持続性のある公共投資を望みたい。
旅行業	旅行業全体が悪循環。入札による利益減（原価割れ）等…利益が上がらないため、新入社員を採用できない。ただし、これは千葉支店だけの状況であり、会社全体では黒字で新規採用も行っている。